

環境経営レポート

《 第 48 期 》

対象活動期間：2020年10月1日～2021年9月30日

『海外の現場とリモートで施工指導を実施』



2018年9月に発生したインドネシア・スラウェシ島地震・津波により、約17万人以上が避難を余儀なくされている。しかし、避難先の定住用住居は上水道等のインフラ整備が進んでおらず、今回外務省の日本NGO連携無償資金協力(N連)に採択された企業と連携し、雨水を活用した自然浄水機能を持つ雨水貯水地下タンク「ためとっと」の施工指導を、現地とリモートで行い貯水量100トン4基の設置が完了した。



®環境省
エコアクション21
認証番号 002801



株式会社 大建

2021年12月15日作成

1 環境経営方針

(1) 経営理念



我々は
地域の人々が
ゆとりと安らぎのある
そして安心して暮らせる
そんな快適な生活環境づくりに
貢献することを使命とする

それによって
人々の満足を我々の喜びとして
一人ひとりが能力の向上と
人格の形成を行い
総合コンサルタント業を発展させる

(2) 行動指針

当社は、九州一円で業務を進めていく中で、業務処理における過程で、環境への影響を理解し、自ら責任を持ち社員一丸となって、エコアクション 21 環境経営システムを構築・運用し、継続的な環境への負荷の削減に努めます。
このため以下の環境への取組を積極的に推進します。

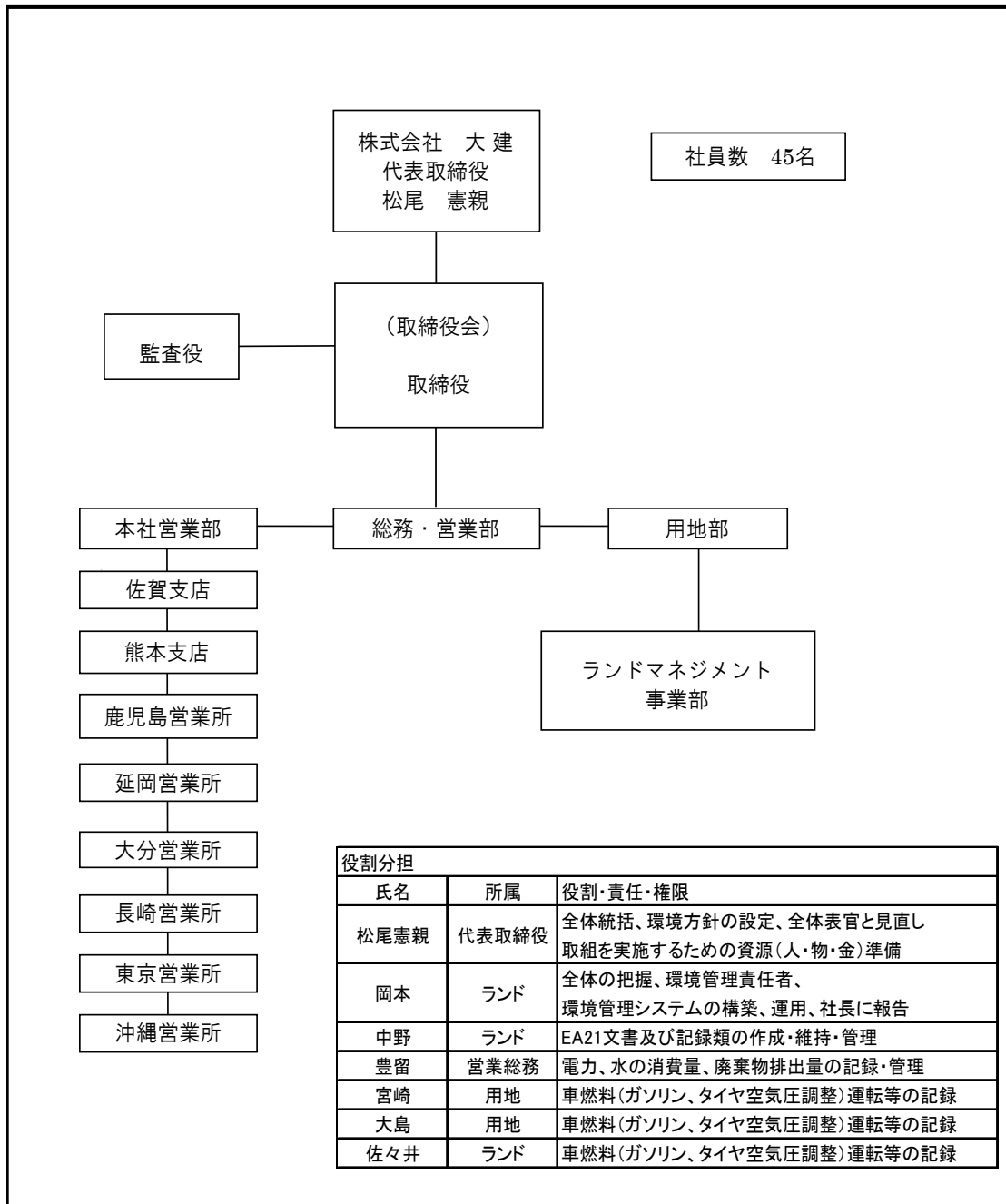
1. 環境関連法規制とその他要求事項を遵守します。
2. 環境目標を定め、定期的に見直し、継続的改善と汚染の予防に努めます。
3. 環境への負荷を軽減するため、次の活動を実施します。
 - (1) 地球温暖化防止のため、省エネルギーを推進し緑を増やします。
 - (2) 事業活動に伴う廃棄に関して分別を積極的に実施することにより、リユース、リサイクルに努め廃棄物を削減します。
 - (3) 雨水を利用し、使用する水の削減に取り組めます。
 - (4) エコドライブを実行し、使用する化石燃料の削減に取り組めます。
 - (5) 土木設計に関して、環境に配慮する工事施工の提案を行います。
 - (6) グリーン商品の、購入品目を増やしていきます。
4. この環境方針は、朝礼や各会議を通じて全社員に周知徹底するとともに、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。

平成 20 年 1 月 4 日制定
平成 24 年 6 月 22 日改訂
令和 2 年 10 月 1 日 改定
福岡市早良区南庄 2 丁目 9 番 12 号
株式会社 大 建
代表取締役

松尾憲親

2 組織図および認証・登録範囲

対象範囲は、全事業所および全事業活動



(1) 会社概要

- ①会社名 株式会社 大 建
- ②代表者名 代表取締役 松尾 憲親
- ③所在地 〒814-0031 福岡市早良区南庄 2 丁目 9 番 12 号
TEL : 092-851-3900 FAX : 092-851-3947
E-mail : daiken@d-ken.jp (代表) <http://www.d-ken.jp>
- ④設 立 1974 年 3 月 20 日
- ⑤資本金 1,000 万円 社員数 45 名 (従業員数 37 名)
- ⑥事業活動 宅地建物取引業 福岡県知事 (3) 第 16244 号
1 級建築士事務所 福岡県知事登録 第 1-12734 号
建設コンサルタント 建 29 第 3929 号
補償コンサルタント 補 30 第 134 号
測量業 登録第 (11) 6498 号
一般建設業 福岡県知事許可 (般-28) 第 105888 号
不動産鑑定業 福岡県知事登録第 (3) 284 号
エコアクション 2 1 認証・登録番号 0002801
エコ事業所登録 登録番号第 2 号
子育て応援宣言 福岡県第 4 4 号

⑦沿革

- 1974 年 3 月 20 日 : 福岡市西区祖原 12 番 30 号において (有) 大建測量設計として設立
- 1978 年 8 月 1 日 : 福岡市西区高取 2 - 4 - 10 へ本社移転
- 1984 年 6 月 20 日 : 株式会社へ組織変更 大建測量設計 株式会社
- 1988 年 4 月 1 日 : 株式会社 大建に社名変更
- 1988 年 8 月 1 日 : 佐賀支店開設
- 1990 年 1 月 27 日 : 資本金 1,000 万円に増資
- 1990 年 4 月 8 日 : 現住所(福岡市早良区南庄)に本社移転
- 1990 年 6 月 1 日 : 熊本支店開設
- 1998 年 5 月 21 日 : 松尾憲親 代表取締役に就任
- 2004 年 10 月 29 日 : 中小企業経営革新支援法承認 (16 経金第 142 号-8)
- 2005 年 10 月 1 日 : 従業員持株会設立
- 2005 年 12 月 22 日 : 福岡県「子育て応援宣言」登録 (福岡県第 44 号)
- 2006 年 8 月 1 日 : 福岡県中小企業経営革新促進補助金交付
- 2007 年 3 月 7 日 : 人財育成・成果品検証ソフト「e-補償くん」販売開始
- 2007 年 6 月 26 日 : 特許出願「e-補償くん」(教育支援装置及び電子教材) (特許 2007-168044)
- 2008 年 1 月 25 日 : 福岡銀行より銀行保証付無担保私募債の引受
- 2008 年 8 月 21 日 : 環境省「エコアクション 21」認証・登録 (0002801)
- 2009 年 9 月 8 日 : 鹿児島営業所開設
- 2009 年 11 月 13 日 : 厚生労働省「緊急人材育成支援事業訓練」認定 (認 21-40-02-00-0103)
- 2010 年 5 月 17 日 : 特許出願「建築物の改築方法およびその方法により改築された建築物」
- 2011 年 10 月 31 日 : 中小企業経営革新支援法承認 (福岡県第 3292 号)
- 2012 年 10 月 1 日 : 経済産業省より異分野連携新事業分野開拓計画に係る認定取得 (20120806 九州第 42 号)
- 2014 年 1 月 7 日 : 住まいの環境デザイン・アワード 2014「九州の家賞」受賞 (作品名「荻浦ガーデンサバープ」)

- 2014年 6月29日：国際連合人間居住計画（ハビタット）による「いのちの水事業」で
ラオス人民民主共和国に雨水貯水地下タンク「ためとっと」
（貯水量約100 t×2基）を築造（～7/5）
- 2014年 9月29日：中小企業庁より「平成25年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・
商業・サービス革新事業(2次公募)」
採択（サービス名「D-MAP File」）
- 2014年 11月14日：特許取得「改良地盤、改良地盤の造成方法及び地下付き建築物」
（特許第5645316号）
- 2015年 6月19日：プライバシーマーク認定（18840029(01)）
- 2016年 3月28日：書籍発刊「雨を貯めるって大切だなあ！」
- 2017年 8月18日：特許「雨水貯水システム」(特許第6190992号)
- 2018年 1月13日：国際連合人間居住計画（ハビタット）による環境技術パイロット事業で
ベトナム社会主義共和国に雨水貯水地下タンク「ためとっと」
（貯水量約100t）を築造
- 2018年 1月19日：国際協力機構（JICA）より中小企業海外展開支援事業（対象国インドネシア
共和国）採択
- 2019年 9月20日：国際連合人間居住計画（ハビタット）による「コミュニティの統合強化事業」
でケニア・カロエベイエイ難民キャンプに雨水貯水地下タンク「ためとっと」
（貯水量約100t）を築造

⑧賞歴 国土交通行政功労者表彰（国土交通省）

2001年 7月19日	森山拡幅（7工区）建物調査等（その3）業務	長崎工事事務所長賞
2002年 7月18日	合志野地区補償説明外1件業務	八代工事事務所長賞
2002年 7月19日	福岡外環（福岡大学）貯蔵タンク調査等業務	福岡国道工事事務所長賞
2003年 7月22日	森山拡幅（7工区）営業調査等（その1）業務	長崎河川国道事務所長賞
2004年 7月16日	北方延岡道路曾木西地区用地調査等業務	九州地方整備局長賞
2004年 7月16日	巖木バイパス長部田地区用地調査等業務	九州地方整備局長賞
2006年 7月28日	日奈久芦北道路（20工区）補償説明業務	八代工事事務所長賞
2007年 7月20日	延岡道路1工区（北川地区外）用地調査等業務	延岡河川国道事務所長賞
2007年 7月31日	赤木橋地区用地調査等業務	宮崎河川国道事務所長賞
2010年 7月16日	平成21年度木塚地区補償説明業務	九州地方整備局長賞
2015年 7月15日	平成26年度国道220号二川地区補償説明等業務	九州地方整備局長賞
2017年 9月19日	平成28年度災害拡大防止復旧作業業務	熊本河川国道事務所長賞
2018年 3月28日	平成29年7月九州北部豪雨における災害対策	筑後川河川事務所長賞
2018年 7月18日	国道3号植木バイパス（大摩地区）用地調査等業務	九州地方整備局長賞
2018年 7月18日	九州北部豪雨における「災害復旧等功労者」表彰	九州地方整備局長賞
2018年 7月23日	平成28年度国道220号益丸・神領地区物件調査等業務	大隅河川国道事務所長賞
2018年 7月23日	平成28年度伊万里道路日尾地区外用地調査等業務	佐賀国道工事事務所長賞
2020年 8月20日	ホンノコウ谷川砂防堰堤用地調査等業務	川辺川ダム砂防事務所長賞
2021年 7月30日	福岡導水施設地震対策（筑紫野）土地評価資料作成業務	水資源機構福岡導水事業所長賞
2021年 8月4日	令和2年度赤瀬川1外砂防用地調査等業務	阿蘇砂防事務所長賞
2021年 8月26日	緑川船津地区河川砂防ステーション用地調査等業務	熊本河川国道事務所長賞

(2) 対象範囲

①支店・営業所

佐賀支店：〒841-0051	鳥栖市元町 1336-6	TEL：0942-50-8446
熊本支店：〒860-0833	熊本市中央区平成3丁目8番1号	TEL：096-334-5420
鹿児島営業所：〒890-0008	鹿児島市伊敷4丁目12番13号	TEL：099-218-3737
延岡営業所：〒882-0857	延岡市惣領町 19-20	TEL：0982-26-5225
大分営業所：〒870-0327	大分市小佐井1丁目12-35	TEL：097-524-2316
長崎営業所：〒855-0862	島原市新湊1丁目20番地	TEL：0957-63-7788
東京営業所：〒206-0041	東京都多摩市愛宕4丁目28-1-501号	TEL：022-721-3395
沖縄事務所：〒903-0806	那覇市首里汀良町 3-69-4-401	TEL：098-885-7557

(3) 環境活動レポート

①対象期間：2020年10月1日から2021年9月30日

②発効日：2021年12月15日

(4) 環境管理担当者

(株)大建 TEL：092-851-3900 E-mail：daiken@d-ken.jp

環境管理責任者 グループリーダー 岡本和寿

3. 環境経営目標

第 48 期から第 52 期までの目標は、以下の通りです。

環境目標		単位	基準年 第 43 期	第 48 期 2020 年 10 月～ 2021 年 9 月	第 49 期 2021 年 10 月～ 2022 年 9 月	第 50 期 2022 年 10 月～ 2023 年 9 月	第 51 期 2023 年 10 月～ 2024 年 9 月	第 52 期 2024 年 10 月～ 2025 年 9 月
1	二酸化炭素排出量の削減	KgCO ₂	64,490	62,877	62,556	62,234	61,911	61,589
				基準年の 2.5%削減	基準年の 3.0%削減	基準年の 3.5%削減	基準年の 4%削減	基準年の 4.5%削減
2	総排水量(給水量)の削減	t	197	192	191	190	189	188
				基準年の 2.5%削減	基準年の 3.0%削減	基準年の 3.5%削減	基準年の 4%削減	基準年の 4.5%削減
3	廃棄物排出量の削減	Kg	529	513	510	508	505	502
				基準年の 2.5%削減	基準年の 3.0%削減	基準年の 3.5%削減	基準年の 4%削減	基準年の 4.5%削減
4	グリーン商品の購入促進	—		購入促進	購入促進	購入促進	購入促進	購入促進
5	時間外勤務管理	—		周知徹底	周知徹底	周知徹底	周知徹底	周知徹底
6	ミス防止	件	0	0	0	0	0	0
7	環境に配慮した設計・施工の提案	—		周知徹底	周知徹底	周知徹底	周知徹底	周知徹底

※1 第 43 期の実績を基準とし、削減目標を設定しています。

※2 電気の二酸化炭素排出係数は、九電の平成 26 年度実績 0.598kg-CO₂/kWh を用いています。

※3 時間外勤務管理とミス防止は、第 44 期の実績を基準値とします。

4. 環境経営計画 第48期（2020年10月～2021年9月）

前期に引き続き、以下のことを目標に活動しました。

1. 二酸化炭素排出量

取組目標	責任者	活動項目	担当者	スケジュール			
				10～12月	1月～3月	4～6月	7月～9月
(1) ガソリン・軽油使用量削減	岡本	① ハイブリット車や低燃費車への計画的な変更	岡本	← 検討・実施 →			
		② 車両の急発進、急停車の禁止、通常走行時2000回転保持	大島 佐々井 大場	← 実施 →			
		③ タイヤ空気圧の定期点検・調整	大島 佐々井 大場	← 実施 →			
(2) 電気・灯油使用量の削減	岡本	④ 空調の適温化の実行 夏(6月～9月は25度～27度程度)、冬(10月～3月は21度～23度程度)	漁野 豊留	← 実施 →			
		⑤ 照明機器の省エネルギー化を進める	漁野 豊留	← 検討・実施 →			
		⑥ 不要電力節約(空室・帰宅時は消灯、PCの電源OFF)	漁野 豊留	← 実施 →			
		⑦ 太陽光発電システムの継続運転	漁野	← 実施 →			

2. 総排水量

(3) 雨水の利用	岡本	⑧ 散水・洗車等の利用	漁野	← 実施 →			
-----------	----	-------------	----	--------	--	--	--

3. 廃棄物排出量

(4) リサイクルの徹底	岡本	⑨ ダンボール用紙等の委託業者への再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑩ トナーカートリッジの回収・リサイクルの実行	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑪ 新聞紙は委託業者へ再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
(5) 紙の使用量の削減	岡本	⑫ 白上質紙はシュレッダー処理後、委託業者へ再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑬ 包装紙、封筒は、委託業者へ再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑭ 社内用の報告書控えは極力電子化	漁野、豊留	← 実施 →			

4. 時間外勤務管理

(6) 残業時間40時間以内	岡本	⑮ 各部リーダー・サブリーダーによる指導	岡本	← 実施 →			
----------------	----	----------------------	----	--------	--	--	--

5. 環境に配慮した設計・施工の提案

(7) 環境に配慮した設計・施工の提案	岡本	⑯ 「ためとつ」の提案含む	岡本	← 実施 →			
---------------------	----	---------------	----	--------	--	--	--

6. ミス防止

(8) ミスの防止	岡本	⑰ チェック体制及び報告・連絡・相談の徹底	岡本	← 実施 →			
-----------	----	-----------------------	----	--------	--	--	--

5. 目標の実績

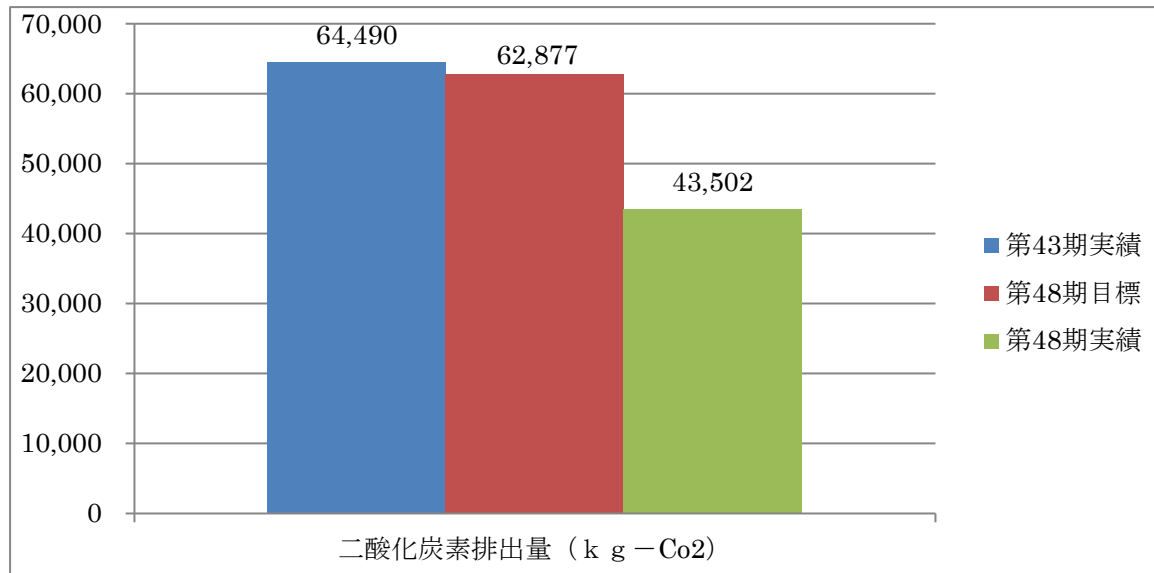
第 48 期（2020 年 10 月～2021 年 9 月）の目標における実績は以下の通りです。

	実施項目	単位	第 43 期 (基準年)	第 48 期 目標	第 48 期 実績	目標の 評価
1	二酸化炭素総排出量	kgCO ₂	64,490	62,877	43,502	○
2	電気の使用量	kWh	26,986	26,311	26,185	○
3	燃料(ガソリン)の使用量	ℓ	20,746	20,228	11,959	○
4	廃棄物排出量	kg	529	513	10.0	○
5	排出水量	t	197	192	175	○
6	グリーン商品購入促進	—	購入促進	購入促進	購入促進	○
7	時間外勤務管理	—	—	周知徹底	周知徹底	○
8	ミス防止	件	—	0	0	○
9	環境に配慮した設計・施工の提案	—	—	周知徹底	周知徹底	○

※1 第 43 期（平成 27 年度）の実績を基準とし、削減目標を設定しています。

※2 電気の二酸化炭素排出係数は、九電の平成 26 年度実績 0.598kg-CO₂/kWh を用いています。

※3 時間外勤務管理とミス防止は、第 44 期の実績を基準値とします。



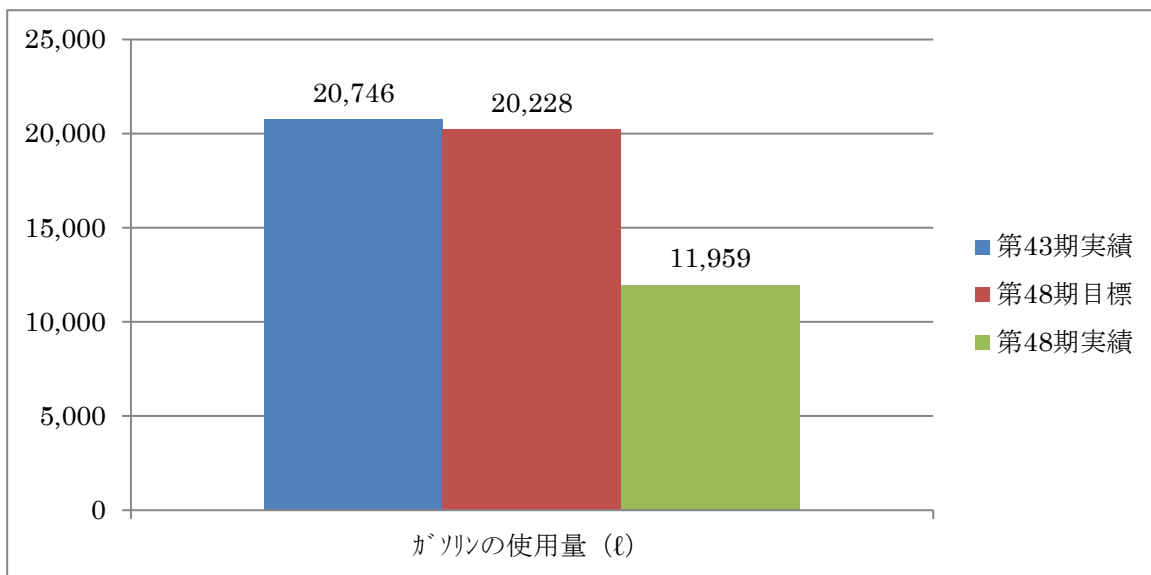
6. 環境経営計画の取組結果

(1) 二酸化炭素排出量の削減

■ ガソリン使用量削減

目標に対して実績は約 41%削減できています。

- ① 今期、ハイブリット車 2 台を追加しました。燃費でも 50%以上向上し、ガソリンの使用量を削減出来ています。今後の計画として、ハイブリット車ではない残り 1 台も変更する予定です。
- ② 車両使用時は PC で予約しなければ車両を使えないので、遠方に行く社員はハイブリット車への交換など他の社員と相談することで、コミュニケーションを活性化する上でも活躍しています。

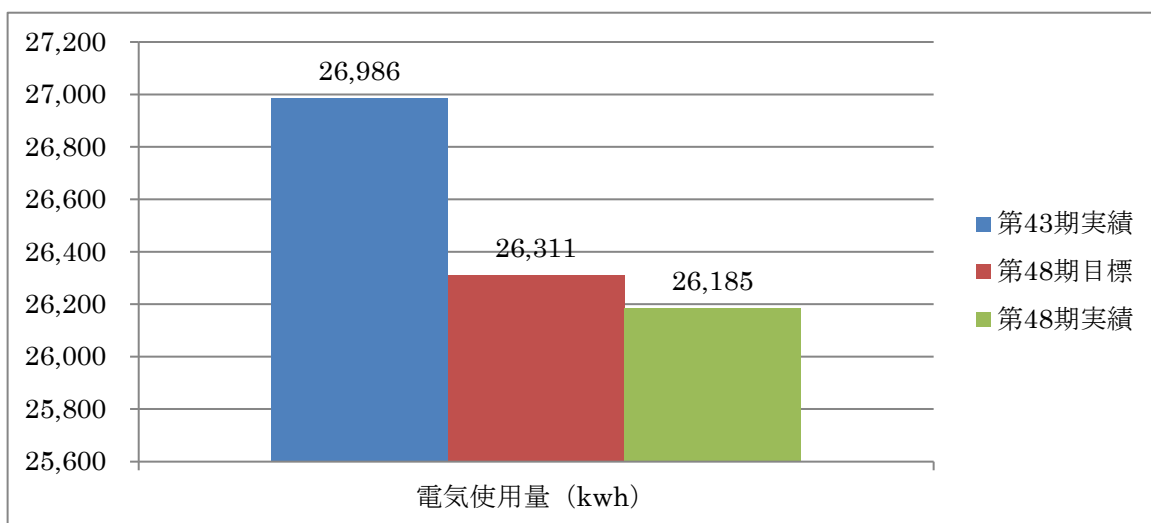


■ 電気使用量の削減

(本社分)

目標に対して実績は約 1%削減できています。

- ① 第 43 期に、社内の蛍光灯を LED 照明への変更した結果、使用電力量は確実に減少しています。



(糸島市住宅地 荻浦ガーデンサバーク分)

当社が計画・施工・分譲・管理している、福岡県糸島市の住宅地「荻浦ガーデンサバーク」には、出力 19 kwh の太陽光発電システムを設置しています。第 48 期実績で 9,646kwh の発電を行っています。発電量は二酸化炭素に換算すると約 5,768 kg-CO₂*に相当します。

(※電気の二酸化炭素排出係数は、九電の平成 26 年度実績 0.598kg-CO₂/kWh を用いています。)

(2) 廃棄物排出量の削減

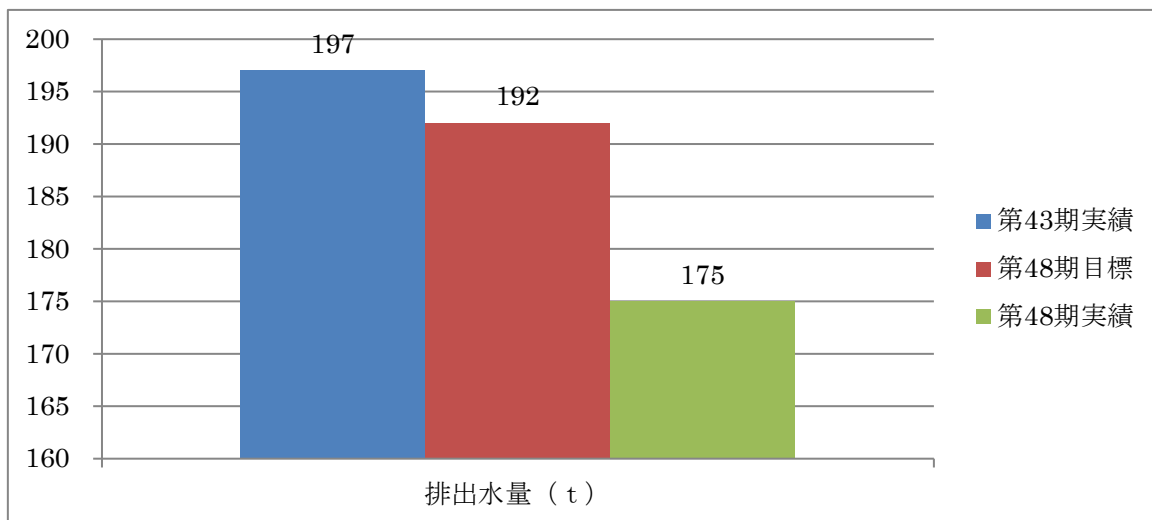
目標に対して実績は約 98%削減できています。

- ①社内で発生する紙類は、個人情報の記載がある紙類は原則焼却処分としていますが、その他は全てリサイクル業者に引き取っていただいています。このように、ゴミではなく再生することで新たな商品として使うことも社内の目標です。

(3) 排出水量の削減

(本社分)

目標に対して実績は約 1%削減できています。



(糸島市住宅地 荻浦ガーデンサバーク分)

前述した荻浦ガーデンサバークには、貯水量約 112 トンの雨水貯水地下タンクがあり、貯水された雨水は、庭の散水・ビオトープ・洗車・トイレの洗浄に利用しています。

トイレに利用する雨水で、18 戸で年間約 1,800 t^{※1}が節約できます。

これを二酸化炭素に換算すると、約 360 kg-CO₂^{※2}に相当します。(換算式=東京都水道局 HP)

※1：一戸当たり 4 人×250 円/日×28%×30 日×18 戸×12 月=1,800t

1 日利用する生活用水の約 28%がトイレの洗浄用に使われています。

※2：CO₂=1,800 t × 0.2=360 kg-CO₂

7. 次年度（第49期）の環境経営計画

取組目標	責任者	活動項目	担当者	スケジュール			
				10～12月	1月～3月	4～6月	7月～9月
(1) ガソリン・軽油使用量削減	岡本	① ハイブリット車や低燃費車への計画的な変更	岡本	← 検討・実施 →			
		② 車両の急発進、急停車の禁止、通常走行時2000回転保持	大島 佐々井 大場	← 実施 →			
		③ タイヤ空気圧の定期点検・調整	大島 佐々井 大場	← 実施 →			
(2) 電気・灯油使用量の削減	岡本	④ 空調の適温化の実行 夏(6月～9月は25度～27度程度)、冬(10月～3月は21度～23度程度)	漁野 豊留	← 実施 →			
		⑤ 照明機器の省エネルギー化を進める	漁野 豊留	← 検討・実施 →			
		⑥ 不要電力節約(空室・帰宅時は消灯、PCの電源OFF)	漁野 豊留	← 実施 →			
		⑦ 太陽光発電システムの継続運転	漁野	← 実施 →			

2.総排水量

(3) 雨水の利用	岡本	⑧ 散水・洗車等の利用	漁野	← 実施 →			
-----------	----	-------------	----	--------	--	--	--

3.廃棄物排出量

(4) リサイクルの徹底	岡本	⑨ ダンボール用紙等の委託業者への再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑩ トナーカートリッジの回収・リサイクルの実行	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑪ 新聞紙は委託業者へ再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
(5) 紙の使用量の削減	岡本	⑫ 白上質紙はシュレッター処理後、委託業者へ再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑬ 包装紙、封筒は、委託業者へ再生依頼	漁野、豊留	← 実施 →			
		⑭ 社内用の報告書控えは極力電子化	漁野、豊留	← 実施 →			

4.時間外勤務管理

(6) 残業時間40時間以内	岡本	⑮ 各部リーダー・サブリーダーによる指導	岡本	← 実施 →			
----------------	----	----------------------	----	--------	--	--	--

5.環境に配慮した設計・施工の提案

(7) 環境に配慮した設計・施工の提案	岡本	⑯ 「ためとつ」の提案含む	岡本	← 実施 →			
---------------------	----	---------------	----	--------	--	--	--

6.ミス防止

(8) ミスの防止	岡本	⑰ チェック体制及び報告・連絡・相談の徹底	岡本	← 実施 →			
-----------	----	-----------------------	----	--------	--	--	--

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用する主な関連法規

自己点検した結果、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘、及び訴訟等もありませんでした。

関連法規 名称	判定
①廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
②地球温暖化対策の推進に関する法律	○
③使用済自動車の再資源化等に関する法律	○
④フロン排出抑制法（改正フロン法）	○

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

(1) 全体方針

社員の労働時間削減、経営の安定化、健康経営の経過報告

①働き方改革対応

- a) 社員教育：時間がかかっている作業、少数しかできない作業の標準化のために、各部門別に作業フロー図の整理を行った。今後このフロー図を基に社員教育に活用する。
- b) 整理整頓：P マーク認証レベルで、ペーパーレスを進め、書類を探す時間をなくすために、大容量のサーバーに変更し活用する。
- c) 外業のオートメーション化、AI化：内業に入る前の標準化が順調に進み、来期までデータ収集のための実証期間とする。

②経営の安定化

- a) フロー型だけでなく、ストック型の経営に取り組む
 - ①継続的に収益が入ってくることにために収益物件の調査・購入検討を行う。
 - ②時期を観測し適時に売却を進める。
- b) 補償コンサルタント業界の単価、数量、作業時間等を実質的に見直し、是正を求めていくために、実績の時間配分等のデータを収集する。

③健康経営

- a) 健康診断項目の多様化による早期発見⇒検査項目の追加を実施
- b) よく噛むことの啓発⇒検討中
- c) 社員食堂の検討⇒検討中